

事務事業名	東電電柱広告案内板設置事業			担当	産業環境部 商工観光課 観光係		
政策名	E	地域と産業が調和する活力あるまちづくり			電話番号	83-8135	
施策名	4	観光の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 年度～）		
予算科目	1.一般会計	7.商工費	1.商工費	3.観光費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	平成20年4月の真岡木綿会館のオープンに合わせ、真岡ICや市内の主要な道路からの誘客を図り、宣伝効果を高めるため、平成19年度末に電柱広告案内板を37ヶ所に設置した。また、21年度では二宮地区からの木綿会館と尊徳資料館への広告案内板25ヶ所を追加設置した。設置数合計62ヶ所 4年ごとに色・デザインの変更可能（追加予算は必要なし）						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 23年度実績 使用料の年度契約及び支払い事務  24年度計画 平成23年度と同様の活動に加えて、真岡木綿会館の広告案内板62枚の内、37枚については、設置から4年が経過するため、新たなものを設置する。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 使用料	千円	745	1,096	1,218	1,218	1,250
	イ 電柱広告案内板設置数	枚	0	62	62	62	
	ウ エ オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 観光客及び市内来訪者	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 真岡木綿会館の入館者数	人	15,927	14,468	18,596	9,325	
	イ 二宮尊徳資料館の入館者数	人	10,393	9,989	9,856	10,930	
	ウ エ オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 真岡木綿会館・二宮尊徳資料館へのスムーズな誘導と宣伝効果。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 木綿会館の入館者数	人	15,927	14,468	18,596	9,325	
	イ 二宮尊徳資料館の入館者数	人	10,393	9,989	9,856	10,930	
	ウ エ オ						
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 真岡木綿会館・二宮尊徳資料館の集客率アップと宣伝により、観光振興を図る。	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	ア 真岡市を訪れた観光客数	人	1,936,456	2,784,799	2,806,703	2,230,492	
	イ ウ エ オ						

(2) 総事業費の推移		単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	
	一般財源	千円	745	1,096	1,218	1,218	0	
	事業費計(A)	千円	745	1,096	1,218	1,218	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	48	48	48	48	0
		人件費計(B)	千円	201	195	205	204	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	946	1,291	1,423	1,422	0	

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成20年4月木綿会館の新規オープンのため、誘導案内板を設置した。また、平成21年3月の合併に伴い二宮尊徳資料館の誘導案内板を設置した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	合併により二宮地区からの木綿会館誘導と尊徳資料館への誘導のため電柱広告案内板が必要となった。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	色を目立つように出来ないか（色の制限があり、使用できない色がある） 大内、山前地区からも誘導した方がいい。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 真岡木綿の振興と観光拠点となる木綿会館は、常備の案内誘導板が必要であり、二宮尊徳資料館の案内誘導板も必要である。また、宣伝効果も兼ねられるため観光振興に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 真岡木綿会館・二宮尊徳資料館への誘導案内板であるため妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 真岡木綿の振興と観光拠点となる木綿会館へのスムーズな誘導及び二宮尊徳資料館への誘導を図るため適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 効果的な場所に設置しており、向上余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 真岡木綿会館・二宮尊徳資料館への案内板が無くなることにより、問い合わせや市外からの観光客に支障がでる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 定額料金であり、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか？ (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 東電広告との打合せや案内板設置検討に必要な必要最小限の人件費のため削減余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 真岡木綿会館・二宮尊徳資料館への観光客誘導のため公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							